

福祉学習資料

—ともに生きる社会をめざして—

(四訂版) 中学生用



作品名：「Dance(ダンス)」 作者：萩下 丈
ふれあいアートステーション・ぎふ登録作品

大 垣 市

はじめに

みなさんは、『福祉』という言葉をよく耳にしたいと思います。『福祉』というと、とても難しいものと感じますね。それでは、『福祉』という言葉に「福」と「祉」に分けてみましょう。「福」と「祉」という漢字には、ともに「幸せ」という意味があります。ところで、みなさんは、どういうときに幸せだと感じるでしょうか。たとえば、自分が困っているときに周りの人に助けてもらった時、あるいは、その反対に、困っている人を自分が助けることができた時、たとえ小さなことでも「幸せ」を感じ、心が「豊か」になりませんか。

『福祉』とは、特別な人に対する特別なことではなく、みなさんが暮らしている日常の生活のなかにあるのです。そう思うと、何となく『福祉』が身近なものに感じられるのではないのでしょうか。

目次

第1章 “ともに生きる”ために

- 1. ノーマライゼーション 1
- 2. バリアフリー 1
- 3. ユニバーサルデザイン 2
- 4. 地域共生社会 2

第2章 大垣市の福祉のあらまし

- 1. さまざまな人への支援
 - (1) 高齢者への支援 3
 - (2) 障がいのある人への支援 4
 - (3) 子育てをする人への支援 6
- 2. 大垣市の福祉の活動体制
 - (1) 大垣市役所の福祉に関する部署 7
 - (2) 大垣市の福祉を支える団体 7
 - (3) 大垣市の福祉を支える人たち 7

第3章 とともに生きる社会をめざして ～さまざまな人にかかわることから始めよう～

- 1. 障がいのある人とのコミュニケーション
 - (1) 目が不自由な人とのコミュニケーション 8
 - (2) 耳が不自由な人とのコミュニケーション 9
 - (3) 体が不自由な人とのコミュニケーション 10
- 2. ボランティアに参加してみよう
 - (1) ボランティアとは？ ボランティアを知ろう！ 11
 - (2) どんなボランティアがあるのかな？ 12
- 3. 地域とのつながりをもとう（地域福祉という考え方）
 - (1) 地域福祉とは 13
 - (2) 地区社会福祉推進協議会 13

第1章

“ともに生きる”ために

さまざまな人が自立して、ともに社会に参加し、支え合う社会のことを「共生社会」といいます。それでは、共生社会をつくるために、私たちはどうすればよいのでしょうか。この章では、共生社会を実現するための考え方や工夫などを紹介します。

1 ノーマライゼーション

ノーマライゼーションとは、高齢者や障がいのある人などを特別な人としてとらえるのではなく、すべての人が社会の一員として普通（ノーマル）の生活ができるよう、ともに暮らし、ともに生きる社会をめざすという考え方です。

2 バリアフリー

バリアフリーとは、もとは建築用語で、「障壁（バリア）」を「取り除く（フリー）」ことにより、高齢者や障がいのある人などが、生活しやすくなるようにすることを意味します。たとえば、車いすを使用する人が移動しやすくなるために、道路の段差をなくすることです。

大垣市では、市内の道路や施設のバリアフリー化を進め、すべての人が住みやすいまちづくりをめざしています。

大垣市のバリアフリー整備について（大垣駅南口での取り組み）

整備前



・歩道と車道の間に段差がありました。

整備後



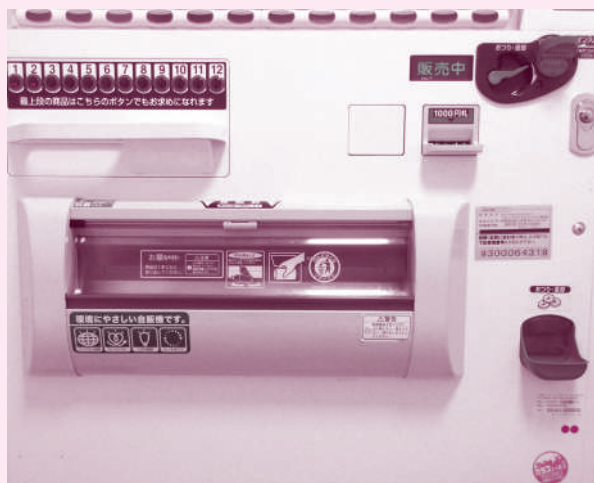
・歩道と車道の段差をなくしました。
・障がい者用停車スペースを設けました。

バリアには、上記のような「物理的なバリア」と、目には見えない「心のバリア（意識上のバリア）」があります。「心のバリア」とは、自分とは違う立場の人に対する誤解や偏見、差別に基づく先入観などのことです。「心のバリア」をなくすには、高齢者や障がいのある人たちの立場になって考え、分けへだてなく心を通わせあうことが大切です。

3 ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、すべての人が使いやすいように、施設や製品などをデザインすることです。たとえば、施設をつくるとき、建物の出入り口の幅や、駐車場の個々のスペースを広くすれば、高齢者や障がいのある人、妊娠中の人、車いすやベビーカーを使用する人も利用しやすくなります。

自動販売機の工夫



商品購入ボタンが、低い位置にもあり、子どもや車いすを使用する人にも利用しやすくなっています。また、硬貨投入口や、商品取り出し口も、だれもが利用しやすいように工夫されています。

エレベーターの工夫

(大垣市役所本庁舎での取り組み)

ボタンが低い位置にあり、「ひらく」「とじる」の表示がわかりやすく、子どもや高齢者、車いすを使用する人などにも利用しやすくなっています。また、義手を使用する人などもボタンが押しやすいよう、押しボタン式となっています。



車いすを使用する人が後ろ向きで出るときに後方を確認できるよう、鏡がついています。

コラム

まちなかで見かけるマーク ～どんな意味があるでしょう～



障がいのある人のための国際シンボルマーク

障がいのある人が利用しやすい建物や施設であることを表す世界共通のマークです。



耳マーク

耳が聞こえない、聞こえにくいなどの障がいのある人が、自身の障がいを表すためのマークです。



身体障がい者標識

手や足などに障がいのある人が、車を運転するときに車に表示するマークです。



マタニティマーク

妊産婦が交通機関等を利用するときに身につけ、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするものです。



ヘルプマーク

周囲に配慮を必要としていることを知らせるためのマークです。



ほじょ犬マーク

補助犬の受け入れについて周囲の理解を求めるマークです。

4 地域共生社会

現代では、少子高齢化や人口減少が進み、地域、家庭、職場の中での支え合いの力が弱まってきています。今、改めてつながりを築き直すため、他人を尊重し、気づかい、時には支え合い、誰もが自分らしく生活できる社会づくりが大切です。

また、地域社会では働き手の不足、空き家、商店街の空き店舗など、担い手が減少したことによる問題が起こっています。さらに、公的なサービスについても、さまざまな課題を抱えるケースに対しては、対応が難しいこともあります。

地域共生社会とは、人々の暮らしの変化を踏まえて、自分たちが社会の一員であるという意識を持って地域に参加し、さまざまな人たちとのつながりを深めることで、一人ひとりの暮らしや生きがい、地域とともに創っていく社会をめざすものです。

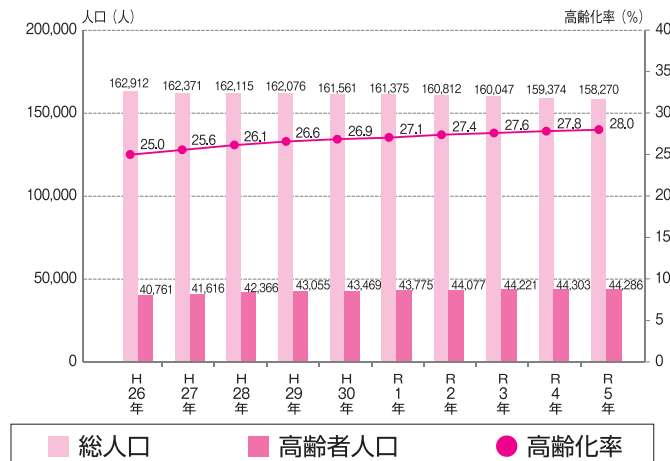
第2章

大垣市の福祉のあらまし

1 さまざまな人への支援

(1) 高齢者への支援

大垣市の総人口・高齢者人口と高齢化率の推移



※ 住民基本台帳人口(各年9月30日)

わが国の高齢化の進展と同様に、大垣市においても、総人口が減少傾向にある一方、高齢者人口(65歳以上の人口)は増加を続け、高齢化率(総人口に占める高齢者人口の割合)は伸び続けています。また、ねたきりや認知症^{※1}など介護を必要とされる人も増加し、介護の負担が問題となる中、家族だけではなく社会全体で支えるため、国において介護保険制度^{※2}が創設されました。

大垣市においても、住み慣れた地域で生きがいを持ち安心して生活できるように、高齢者福祉計画・介護保険事業計画を策定し、高齢者に必要な福祉サービス・介護保険サービスの提供に取り組んでいます。

～主な介護保険サービス～

制度やサービスの名称	内 容
訪問介護 (ホームヘルプサービス)	ホームヘルパーが自宅を訪問し、食事、入浴、排せつなどの介護や、掃除、洗濯、買い物などの生活援助を受けます。
通所介護 (デイサービス)	デイサービスセンターで、食事、入浴などの介護や機能訓練を日帰りで受けます。
短期入所 (ショートステイ)	短期間、施設に入所して、食事、入浴などの介護や機能訓練などを受けます。
介護保険施設 (特別養護老人ホームなど)	自宅での生活が困難な人が施設に入所して、日常生活上の介護やリハビリテーションなどを受けます。
福祉用具貸与	車いすやベッドなどの福祉用具を借りることができます。

※1 認知症 …………… いろいろな原因で脳の細胞の一部が機能しなくなることによって、記憶力や判断力などが衰える症状

※2 介護保険制度 …… 原則として40歳以上の人全員が加入し、介護が必要になったときに大垣市に申請し認定されると、一定の費用負担で心身の状態に応じた介護サービスなどを受けられる制度

コラム

「見守りシール」を知っていますか？

認知症の症状によって、道に迷ってしまうおそれのある人が服や帽子、持ち物などに「見守りシール」を貼っています。

もし、まちなかでこの「見守りシール」を身に付けた人が困っている様子だったら、近くの人に知らせて声をかけてもらってください。

●見守りシールとは

見守りシールのQRコードをスマートフォンで読み取ると見守る家族と連絡が取れ、現在地などを知らせることができます。



あなたも「認知症サポーター」に

認知症の人やその家族が、住み慣れた場所で安心して暮らしていくためには、皆さんの支えが必要です。認知症について一緒に学び、認知症サポーターになりませんか。「認知症サポーター養成講座」を受講すると、認知症サポーターの証であるオレンジリングをお渡します。



●認知症サポーターとは

認知症の正しい知識と具体的な対処方法などを学び、認知症の人やその家族を地域で支える応援者＝サポーターです。

(2)障がいのある人への支援

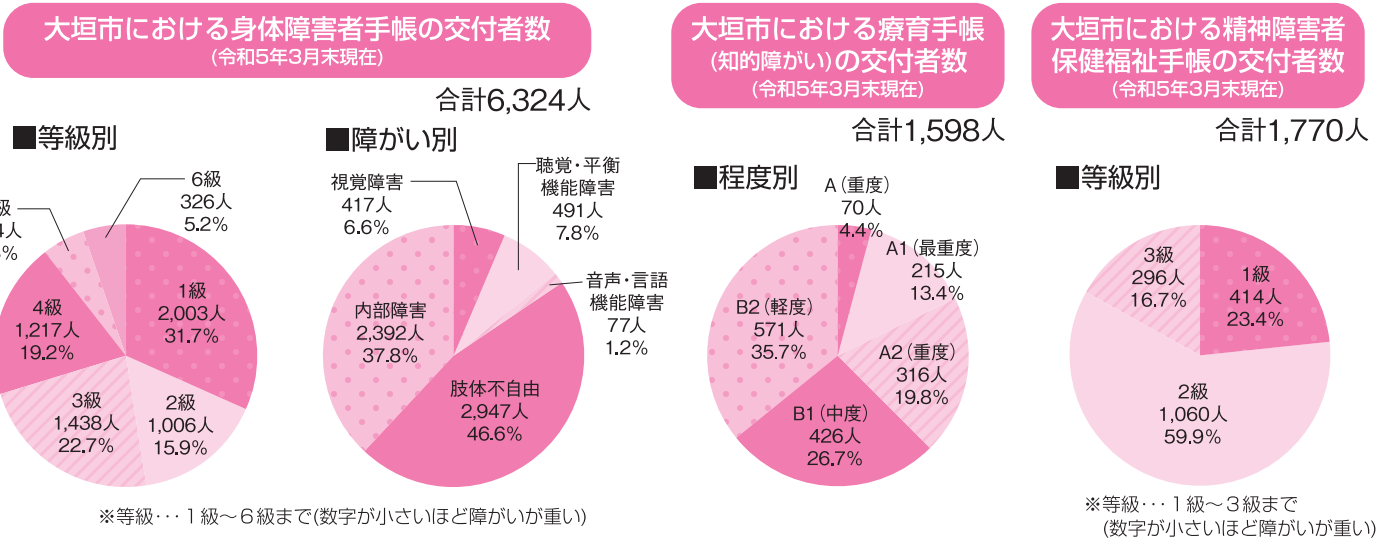
“障がいのある人”には、それぞれの特性があります。たとえば、目や耳、手足、心臓、じん臓などに障がいのある「身体障がい」、知的な働きや発達がゆっくりな「知的障がい」などがあります。

障がいのある人は、特別な人ではありません。だれでも人生の途中で病気や事故により、障がいのある人になる可能性があるのです。

障がいのある人が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるように支援するため、障害者手帳が発行され、その障がいの特性など、心や体の状態に応じた福祉サービスが提供されています。

また、大垣市では障がいのある人が、積極的に社会活動に参加し、地域や家庭で自立した生活を送ることができるように、さまざまな取り組みを行っています。

障害者手帳の交付者数等



大垣市における難病患者※1数(令和5年3月末現在)

969人

※1 特定医療費(指定難病)受給者証の所持者

～障がい者福祉に関する主なサービスや施設～

サービスや施設の名称	内 容
居 宅 介 護	障がいのある人の自宅にヘルパーを派遣し、入浴や食事などの介護を行います。
同 行 援 護	移動することが困難な重度の視覚障がいの人に、ヘルパーが外出時に同行して移動の支援を行います。
就労移行支援・就労継続支援	障がいのある人に就労の機会を提供したり、仕事に必要な知識や技術の向上のための訓練を行ったりします。
大垣市障がい者就労支援センター	就職を希望している障がいのある人やその家族、障がいのある人を雇用したいと考えている企業からの相談に対応しています。
かなみ作業所	知的障がいのある人が就労を通じて生活ができるよう、訓練や作業を行います。
柿 の 木 荘	知的障がいのある人が日常生活に必要な動作や習慣を身につけ、社会や家庭での生活ができるよう、訓練を行います。
ひまわり学園	発達がゆっくりな子どもたちが保護者と一緒に通園し、発達を促す遊びや、ことばの指導を受けます。

〈「障がい」と「障害」の表記について〉
大垣市では、人や人の状態を表す場合は「障がい」、法律や団体等の名称、固有名詞は「障害」としています。

障害者差別解消法

障害者差別解消法は、障がいのある人への差別をなくすことで、障がいのある人もない人も、ともに生きる社会をつくることをめざしています。

この法律でいう差別とは、「不当な差別的取扱い」と、「合理的配慮をしないこと」とされています。

- 「**不当な差別的取扱い**」…… 障がいがあるという理由だけで、障がいのない人と違う扱いをすること（車いすでの入店を断るなど）
- 「**合理的配慮をしないこと**」… 公的機関や会社・お店などが、障がいのある人のことを考えた対応をしないこと（聴覚障がいのある人が、筆談による対応を求めても対応を拒否するなど）

障がいについての理解を深める活動

○障害者週間

12月3日から9日までの障害者週間には、障がいについての理解を深めてもらうため、街頭啓発や市役所多目的スペースでの障がい者作品展などを行っています。

○発達障害啓発週間

4月2日から8日までの発達障害啓発週間には、自閉症をはじめとする発達障がいを啓発する活動を行っています。



マンガで学ぶ障がいのこと

障がいの特性や、障がいのある方への接し方について、マンガでわかりやすく紹介しています。大垣市のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。

コラム

授産製品を購入してみませんか



障がいのある人たちが、施設に通いながら、仲間と協力して作る製品を“授産製品”といいます。

大垣市では、授産製品を多くの人に知ってもらい、購入してもらえよう、販売の促進に取り組んでいます。

●主な授産製品

お菓子(カステラ、かりんとう、クッキーなど)
雑貨(エコバッグ、手芸製品など)

●販売しているところ

大垣市役所、大垣市民病院、奥の細道むすびの地記念館の売店など



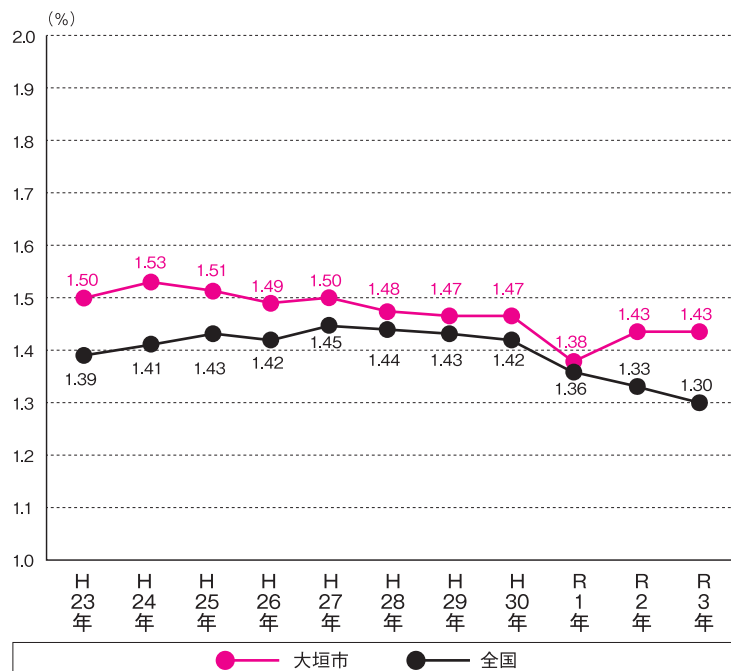
あなたも障がい者サポーターになりませんか

障がいの特性や、必要な配慮方法を知り、障がいのある人が困っているときに「何かお手伝いしましょうか」と声をかける障がい者サポーターを募集しています。

サポーターには、シンボルマーク(左図)がデザインされたグッズが交付され、グッズを身に付けることで、障がいのある人が困ったときに声をかけやすくなります。サポーターの輪が広がることで、障がいのある人もない人も、だれもが安心して暮らせるまち「大垣」を目指しています。

(3)子育てをする人への支援

全国・大垣市の合計特殊出生率の推移



※資料：西濃地域の公衆衛生

日本の人口に占める子どもの割合は年々低下し、全国的に少子化が問題となっています。

また、合計特殊出生率(一人の女性が一生の間に生む子どもの数を示す値)は、全国的にも低い状況が続いており、大垣市でも、全国平均を上回っているものの近年減少傾向にあります。

現代社会では、核家族化が進み、地域社会とのつながりが弱まり、子育ての相談や手助けを身近な人に求めることが難しく、子育てに対して孤立感や不安感をもつ人が多くなっています。

こうしたことから、大垣市では、妊娠期から子育て期まで、一体的な支援を行えるよう、こども家庭センターを開設しています。そして出産を経て、子どもがすこやかに育ち、安心して子育てができるよう、さまざまな子育て支援サービスを行っています。たとえば、子育て中の親同士の交流や子育てについての相談などができる「子育て総合支援センター」「子育てサロン」「地域子育て支援センター」の開設や、保育園等における一時保育や延長保育などの実施、病気の安定期や回復期等に利用できる病児保育などを行っています。

～子育て支援に関する主な制度やサービス～

制度やサービスの名称	内 容
子育て総合支援センター (キッズピアおおがき 子育て支援センター・ 南部子育て支援センター)	子育て総合支援センターとして、キッズピアおおがき・南部の両支援センターを拠点に、「相談」「情報提供」「人材育成」「交流」の4つの機能を柱に、子育て世代のサポートに努めています。 【キッズピアおおがき子育て支援センター】 子育て世代の親子が気軽に集い交流し、相談や情報交換などができる場を提供。一時預かりや、地元大学や企業などとの連携講座など、多彩な事業を展開しています。 【南部子育て支援センター】 親子でふれあえる場として、交流サロン「おひさま」を開設しているほか、休日乳幼児期相談や子育て講座の開催、絵本の読み聞かせ・貸し出しなどを行っています。
こども家庭センター	子ども・妊産婦等の実情把握、情報提供、相談支援等を行うとともに、支援内容を記載・確認するサポートプランを作成しています。相談支援にあたり、児童福祉機能・母子保健機能が一体となり、情報共有などを行います。また、要保護児童等の調整機関として、関係機関との情報共有・調整を行っています。
子育てサロン	子育て中の親子等が交流できるサロンを、市内の地区センター等で開催しています。親子遊びや相談等を行っています。
地域子育て支援センター	育児不安の解消や、地域の子育てを支援するため地域子育て支援センターを市内6保育園等で開設しています。育児相談、園庭開放、親子遊び、子育て講座を開催しています。
病 児 保 育	病気の回復期または症状の急変が認められない病児について、家庭での保育が困難な場合、医師の指示に基づき看護師と保育士が連携して一時的な保育を実施します。
ファミリーサポートセンター事業	保護者の外出時や、保育園等の保育時間前後に子どもの世話が必要な場合など、あらかじめ登録した依頼会員が提供会員から子どもの預かりや送迎などの支援を受けるものです。
エンゼルサポーター事業	病気や妊娠中の体調不良等により、家事や育児を行うことができない場合、サポーターが出向き、家事や育児(授乳・おむつ交換など)の援助を行います。
家庭訪問型子育て支援 ホームスタート事業	乳幼児を養育する家庭の育児不安やストレスを軽減するため、ホームビジターが家庭を訪問し、相談を受けたり、一緒に家事や育児を行います。



キッズピアおおがきの様子



南部子育て支援センターの様子



子育てサロンの様子

2 大垣市の福祉の活動体制

(1) 大垣市役所の福祉に関する部署

大垣市役所では、主に健康福祉部とこども未来部で福祉に関する仕事をしています。

■健康福祉部

	主な仕事
社会福祉課	地域福祉, 生活保護, 見守り支援, 社会福祉法人監査
障がい福祉課	障がい者福祉, 見守り支援
高齢福祉課	高齢者福祉, 見守り支援
介護保険課	介護保険
国保医療課	国民健康保険, 後期高齢者医療, 福祉医療, 国民年金
保健センター	母子・成人・高齢者保健, 食育の推進(健康診査, 健康相談, 健康教育, 予防接種, 訪問指導など)

■こども未来部

	主な仕事
子育て支援課	子育て支援, 児童福祉, 発達支援
保育課	幼保園・幼稚園・保育園・認定こども園等
子育て総合支援センター	子育て相談・情報提供・人材育成・交流の場の提供

大垣市ホームページ <https://www.city.ogaki.lg.jp/>

大垣市ホームページ中、「保健・福祉のガイドブック」では、福祉に関する制度やサービスについて、詳しく説明しています。※「大垣市ホームページ」⇒市政タブ⇒冊子・刊行物⇒保健・福祉のガイドブック

(2) 大垣市の福祉を支える団体

大垣市では、さまざまな団体が福祉活動を行っています。

ここでは「大垣市社会福祉協議会」と「大垣市社会福祉事業団」を紹介します。

団体名	所在地	電話番号	U R L
社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会	馬場町124 (総合福祉会館内)	78-8182	https://www.ogakishakyo.or.jp/
地域の人たちと一緒に、だれもが安心して暮らすことができる地域福祉の実現をめざして福祉活動を進めています。			
社会福祉法人 大垣市社会福祉事業団	牧野町2-150-1 (お勝山ふれあいセンター内)	71-3918	https://ogaki-fukushi.jp/
大垣市が設置する福祉施設の一部を管理・運営しています。			

この他にも、大垣市は様々な社会福祉法人、医療福祉法人などに支えられています。

(3) 大垣市の福祉を支える人たち

大垣市では、さまざまな人たちが、地域で福祉活動を行っています。

ここでは「民生・児童委員」、「保護司」、「赤十字奉仕団員(赤十字奉仕団)」、「福祉推進委員」を紹介します。

	主な仕事
民生・児童委員 [令和5年12月末 367人]	民生・児童委員は、地域の身近な相談相手として、だれもが安心して暮らせる地域づくりのために、支援を必要とする地域住民と市役所などの公的機関をつなぐパイプ役として幅広い活動を行っています。
保護司 [令和5年12月末 72人]	保護司は、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアとして、保護観察官と協働して保護観察にあたるほか、犯罪や非行をした人が社会に復帰したとき、スムーズに社会生活ができるよう、住まいや就業先などの調整や相談を行っています。
赤十字奉仕団員 (赤十字奉仕団) [令和5年12月末 1,274人]	赤十字奉仕団は、赤十字の人道・博愛の精神のもとに、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践するボランティアの組織で、災害時の救護活動、献血の推進活動、社会福祉活動などを行っています。
福祉推進委員 [令和5年12月末 883人]	福祉推進委員は、地域住民のよき相談相手となるとともに、地域づくりの担い手として自治会長、民生・児童委員などと連携して地域の福祉推進活動を援助しています。

1 障がいのある人とのコミュニケーション

(1) 目が不自由な人とのコミュニケーション

目が不自由な人の見え方は、全く見えない人、見えにくい人、光だけ分かる人など、人によって大きく異なります。また、目に見える範囲(視野)に障がいのある人もいます。しかし、目が不自由な人に共通していることは、「音や声」といった耳からの情報が大切だということです。

① 目が不自由な人にとって困ることはなんでしょうか？

特に「読む・書く・歩く」の3つがあげられます。

多くの方は、これらを克服するために、点字や音声案内のある携帯電話やパソコン、はくじょう白杖を使用したり、盲導犬と生活したりするなど、いろいろな工夫をしています。

② 目が不自由な人とのコミュニケーション

目が不自由な人とのコミュニケーションというと、点字を思い浮かべる人が多いと思います。点字は目が不自由な人の大切な情報収集・伝達手段ですが、点字だけがコミュニケーションの手段ではありません。点字のほかに、どのようなコミュニケーションがあるか考えてみましょう。

みなさんにも
すぐできる

目が不自由な人とのコミュニケーション

① 具体的な言葉で伝える

② 触れることで伝える

《大垣市内で活躍する音訳※¹のボランティア団体》

○音訳奉仕グループ つばくろ



音訳奉仕グループ つばくろ
～音訳の録音の様子～

※1 音訳・・・書かれた文字を音声化すること。

《大垣市内で活躍する点訳※²のボランティア団体》

○大垣点訳グループ 愛盲会



大垣点訳グループ 愛盲会
～福祉学習で点訳体験～

※2 点訳・・・普通の文字や文章を点字に直すこと。

(2) 耳が不自由な人とのコミュニケーション

耳が不自由な人には、音が全く聞こえない人や聞こえにくい人(難聴者)がいます。その原因は、生まれたときからの場合や、病気や事故などで聞こえなく(聞こえにくく)なったなど、さまざまです。

① 耳が不自由な人にとって困ることはなんでしょう？

たとえば・・・

- ・病院や銀行の窓口で名前を言われても気付かないこと
- ・駅の「事故のため〇〇分遅れます」というアナウンスが分からないことなどがあげられます。

しかし、耳が不自由な人は、外見では分かりにくく、まわりにいる人も気付かないことがあります。そのため、日常生活で困ることや、危ない目にあうことが多いようです。「耳が不自由」ということは、外からは「見えない障がい」なのです。

② 耳が不自由な人とのコミュニケーション

耳が不自由な人とのコミュニケーションというと「手話」を思い浮かべる人が多いと思います。ところが、耳が不自由な人のなかで、手話ができる人の割合は2割程度しかありません。「手話」は耳が不自由な人の大切な言語ですが、手話にこだわらず、工夫してコミュニケーションをとることが大切です。それでは、どのようなコミュニケーションがあるか考えてみましょう。

みなさんにも
すぐできる

耳が不自由な人とのコミュニケーション

- | | |
|---------------------|----------------|
| ①ジェスチャー(身振り・手振り)・表情 | ②筆談(書いて伝える) |
| ③口話(口の動きで伝える) | ④空文字(空中に文字を書く) |

《大垣市内で活躍する手話のボランティア団体》

- 大垣手話サークル
- 手話サークル 鳩の会
- 墨俣手話サークル

手話サークル 鳩の会
～手話の勉強会の様子～



《大垣市内で活躍する要約筆記*のボランティア団体》

- パソコン情報保障おおがき

パソコン情報保障おおがき
～パソコンによる要約筆記～



※要約筆記・・・耳が不自由な人のために、話の内容を要約して書き伝えること。

(3)体が不自由な人とのコミュニケーション

わたしたちの周りには、手が不自由な人や足が不自由な人など、体が不自由なために日常生活に困難を伴う人がいます。その原因は、生まれたときからの場合や、病気や事故などで体が不自由となったなど、人によってさまざまです。

① 体が不自由な人にとって困ることはなんですか？

たとえば車いすを利用している人だと・・・

・少しの段差が越えられないこと ・高いところのものが取れないことなど があげられます。

② 体が不自由な人とのコミュニケーション

体が不自由な人が困っているのを見かけて「何か手伝えることないかなあ・・・」と思っても、どのように声をかけていいのかわからない人も多いと思います。そんなとき、悩む必要はありません。そのまま素直に「どうしましたか？」「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけてください。

また、“言語障がい”といって、自分の言いたいことをはっきりと伝えることが難しい人もいます。ゆっくりと待ち、よく聞いて、相手の気持ちを理解しましょう。

～コミュニケーションの方法はいろいろありますが、
一番大切なことは、「伝えよう」という気持ちです！～

市内小学校で行われた「車いす体験」の様子

～車いすの機能や使うときの注意点などの
講義を受けています～



～車いすを利用する役、介助する役を
交互に体験しています～



2 ボランティアに参加してみよう

(1) ボランティアとは？ ボランティアを知ろう！

ボランティアをはじめたいと思うきっかけは人それぞれです。ボランティアは、自分の関心のある内容で、できることから始められる身近な活動です。ボランティア活動は、自分に自信をつけることができ、地域や社会をよくすることにも役立ちます。

ボランティア活動は、自分の意志で行う

だれかに強制されたり、義務で行ったりするものではなく、自分の意志で取り組むものです。

ボランティア活動では、さまざまなことが得られる

感動や喜び、充実感、達成感などが得られ、活動そのものが楽しくなります。また、活動を通じて、人や社会、自分について新しい気付きや知識、技術を学ぶこともできます。さまざまな人たちと知り合い、協力しあうことで、人とのつながりを広げることもできます。

ボランティア活動により、すでにある仕組みや発想を超えられる

すでにある仕組みや発想にとらわれずに、何が必要とされるかを考えて実施することができる活動です。そうした取り組みが、新しいサービスや社会の仕組みを生み出すことにつながる創造的な活動です。

ボランティア活動を長く楽しく続けるために 知っておきたい4つのポイント

① 興味や関心がある身近なことから始めよう！

せっかく取り組むのであれば、なるべく継続したいもの。興味や関心のないことから始めても長続きはしません。今の自分にできる身近なことからやってみましょう。

② 無理をしない！

何ごとも無理をしないことが大切。最初から欲張らず、できることから始めましょう。

③ 約束・ルールは必ず守ろう！

活動には多くの人に関わります。迷惑がかからないよう、約束やルールは必ず守りましょう。

④ 相手や関係者の立場を尊重しよう！

ボランティア活動では、さまざまな立場や思いの人たちが関わります。相手を尊重し、お互いに協力しましょう。

～ボランティア活動は、すべての人が地域のなかで豊かに暮らすことができる社会をめざし、それぞれが自分の身近なところで「自分にできること」を考え、自分から行動することです～

(2)どんなボランティアがあるのかな？

1. ふれあう・手伝う(友愛・交流活動)



〈児童生徒による施設訪問活動風景〉

施設への訪問(趣味を生かした活動・傾聴など)、「ふれあい・いきいきサロン」での手伝い、高齢者や体が不自由な人とのふれあいなど

2. 集める(収集・募金活動)



〈NTTOBむすびの会による切手整理風景〉

使用済み切手、使用済みテレホンカードの収集。赤い羽根共同募金や歳末たすけあい募金、ユニセフなどへの寄付など

3. 学ぶ・作る(学習・製作・創作活動)



〈大垣手話サークルの手話学習風景〉

点訳、音訳、手話などの技術を学び、学んだことを生かし、点字本の製作や録音CDの作成など

4. 調べる・整える(調査・研究・地域環境整備活動)



〈ボランティアグループたけのこの活動風景〉

地域の清掃活動、花いっぱい運動、自然を保護する取り組みなど

5. 伝える・広める(文化伝承活動)



〈ふるさと大垣案内の会の活動風景〉

講座開催、劇などを通しての啓発活動、郷土史の学習、史跡を案内する活動など

6. 仲良くする(国際交流・国際理解活動)



〈大垣国際交流協会の活動風景〉

地域単位での海外交流や外国の方のホームステイの受け入れなど

この他にも・・・

- 子育て支援(託児・子育てサロンなど)
- 地域のイベントに参加

- 災害救援活動への取り組み
- 障がいのある方の外出支援 など

ボランティア活動について詳しく知りたい方は、

大垣市ボランティア市民活動支援センター

(馬場町124 総合福祉会館内 TEL78-8182 <https://www.ogakishakyo.or.jp/>)

3 地域とのつながりをもとう(地域福祉という考え方)

(1)地域福祉とは

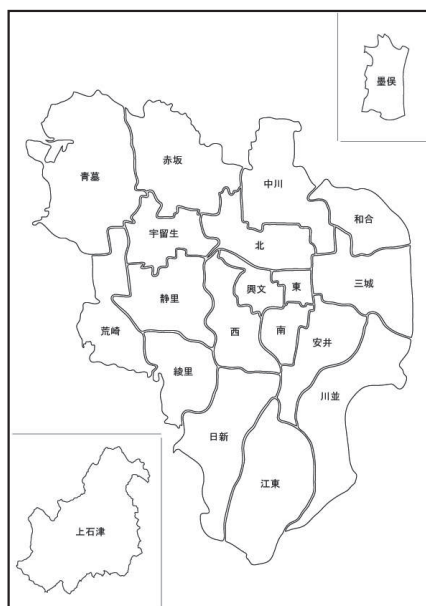
福祉とは、高齢者や障がいのある人だけが対象ではありません。小さな子どもから高齢者まで、みなさんが暮らしている地域での日常生活が「幸せ」であることが福祉なのです。そう、みなさんも地域福祉に自然とかわっているのです。

(2)地区社会福祉推進協議会

①地区社会福祉推進協議会って何？

大垣市には、地域の福祉を推進するために、「地区社会福祉推進協議会」(以下「地区社協」といいます。)が小学校区を単位として20地区にあります。

地区社協は、みなさんが住む地域の人たちの「おもいやりの心」「ふれあいの心」を育む事業を行っています。



地区社協活動の3本柱



第1の柱

地区社協を強化する事業



第2の柱

福祉の心を育てる事業



第3の柱

福祉の輪を広げる事業

②具体的には何をしていますの？

「住み慣れた地域ですべての人が安心して暮らせるまちづくり」をめざして、次のような見守り活動やふれあい活動をしています。

「見守り活動」って何だろう…？

地域の高齢者や障がいのある人たちが、安心して生活するためには、地域のみなさんの力が必要不可欠です。ひとり暮らしの高齢者が、もし家中で病気やけがで倒れてしまったとしたら、だれもそのことに気付かず、取り返しのつかない事態になってしまうことも考えられます。

そのようなことが起きないように、地域の人々は、さまざまな見守り活動を行っています。



食事サービス



【お弁当作りの様子】

見守り活動の一つとして、手作りのお弁当を持って訪問する食事サービスを実施しています。

食事を配達することで、普段から顔を合わせることができ、その人の些細な変化にも気付くことができます。

普段、地域の人々は、みなさんの知らないところで、このようなボランティア活動を行っています。そして、地域によっては食事サービスを学生といっしょに行っているところもあります。みなさんが地域のなかで、何気なくあいさつをしていることも、見守り活動の一つなのです。

あんしん見守りネットワーク



住み慣れた地域で生活し続けられるように、生活に不安がある人や、日頃の声かけなどによって元気に生活していただける人などを対象に地域住民が一体となり、様々な活動を行っています。

地域の中でネットワークを組み、見守りや話し相手など、自分にできることを行い、すべての人が地域で孤立することなく、安心して生活できるように活動しています。

みなさんのあいさつや笑顔が、他のだれかを安心して生活し続けることのできる支えにつながっています。

災害がおきたときの“共助”のしくみづくり



災害がおきたときに高齢者や障がいのある人が避難に困らないよう、住民が共に助け合うしくみをつくっておくことが大切です。

安全に避難するために危険箇所や避難経路、支援方法の確認、避難所生活ではどういったことに配慮しなければならないかといったことを地域の人々で話し合っています。

また実際に災害が起きたことを想定した避難訓練を行うことで、地域の中での防災意識の向上につながっています。

ふれあい・いきいきサロン



【いきいきサロンの様子】

「ふれあい・いきいきサロン」とは、地域の高齢者が仲間や近所の人たちとふれあえる身近な場です。公民館や集会所などを活用して、レクリエーションや茶話会などを行っています。このような活動は、高齢者の閉じこもり予防や認知症の予防、生きがいづくりにつながっています。サロンのなかには、小学生や中学生が参加しているところもあります。コロナ禍では、集まらない代わりに訪問でのふれあい活動もありました。

住民運動会



【住民運動会の様子】

「運動会のどこが福祉？」と思われるかもしれませんが、実は大いに関係しているのです。

町内で競技に参加することで、子どもも大人も関係なく一致団結しますね。それこそが地域福祉につながるのです。日頃は恥ずかしくてあいさつもなかなかできないけれど、運動会を通じて、自然と話ができるようになります。また、地域によっては、防災訓練などを競技に取り入れているところもあり、自分たちの地域を自分たちで守ろうという意識が芽生えます。思いやりの心も生まれる立派な福祉活動なのです。

三世代ふれあい交流



【歳末友愛訪問の様子】

三世代交流とは、みなさん、お父さんやお母さん、おじいさんやおばあさんといった、世代の異なる人と交流を深める事業です。最近では、核家族が多くなっており、おじいさんやおばあさんとふれあう機会が少なくなっていますが、おじいさんやおばあさんの歩んできた生活の知恵や歴史は、学校では学ぶことができない素晴らしいものです。

この交流で地域を学び、地域を大切にしようと思う心を育てることにつながっていきます。

コロナ禍では、学校×社協×高齢者、それぞれをつなぐ素敵なお手紙を作成し、心と心の交流を図りました。

生活支援活動



【支え合い活動の様子】(隣近所で助けあい)

みなさんはちょっとした困り事があったときには、誰に頼みますか？もしも、頼める人がいない時に、「助けて」と声を上げることが出来ますか？

地域にある様々な団体が協力し、ちょっとした困り事を隣近所や地域の中で解決できる仕組みづくりを進めています。その中で支え合う仕組みづくりの必要性や支え合い活動への理解を深めるため、高齢者にどんな困り事があるのかを調査したり、地域の方を対象に講座や研修会を開催し、支え合いの団体づくりを支援しています。みなさんも「助けて」と言える地域づくりや、「ちょっとした手助け」として自分に何ができるかを考えてみませんか。

このように、地区社協ではさまざまな事業を行っています。みなさんも、事業に参加することで、自分たちの住んでいる地域の新たな発見ができます。また、地域の人たちとのふれあいが生まれ、だれもが顔なじみとなり、あいさつが自然とできる、困ったときに助け合える幸せな地域ができるのです。

地域福祉とは、子どもも大人も、高齢者も障がいのある人も関係なく、その地域に住むすべての人が幸せに暮らすことができるようになることです。あらたまって「福祉活動をしてみよう」と思わず、まずは身近な自分の住んでいる地域に目を向けてみましょう。みなさんができること、みなさんでしかできないことがたくさんあります。そう、みなさんは地域福祉の主役なのです。

地区社協の活動について詳しく知りたい方は、

大垣市社会福祉協議会（馬場町124 総合福祉会館内 TEL78-8182）



令和6年3月発行

- 編集 大垣市健康福祉部社会福祉課
- 発行 大垣市健康福祉部社会福祉課
大垣市丸の内2-29
☎ 47-7256(直通)
- 協力 社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会
大垣市ボランティア市民活動支援センター
大垣市馬場町124
☎ 78-8182